



# 留学生と語り合う No. 90

## RKKニュース

(2023年 新年号)

NPO 法人 留学生と語り合う会 (RKK)

### 留学生の願い、会員の望みを かなえた交流会

北地区 松井 直子

北地区では、Zoom の講習会を持ち、会員同士の趣味や情報交換による交流会を開催して来ました。



オンライン交流会

そこで、いままで積極的に取り組んできた留学生との交流会も Zoom を使えば可能と考えました。

#### ・2021年度 (Zoom による交流)

①留学生 5 人とそのチューターとの話し合い。テーマ「コロナ禍の中で困ったこと」、②話し合いの内容を会員に報告し、留学生の気持や願いを共有。

#### ・2022年度 (Zoom と対面のハイブリッド型交流)

①留学生 5 人の各自のプレゼンテーションの発表 (Zoom) テーマは自由「自分の研究テーマ；日本に来てからの生活など」、②北地区会員は会場 (旭区市民活動支援センター) に集合(対面)、

\*ゲスト会員の方は Zoom で参加。

#### 留学生の声

・他国、他地域から来た方々の発表を聞いて、それぞれの異なる人生を知る事ができた。・日本語で発表したので、日本語の能力を高める良い機会になった。・次回はテーマのある交流会に参加したい。

#### 会員の意見

・留学生の顔を見ることも話をする事も少なくなった今、貴重な体験だった。・会場に集まった会員同士は連携しながら留学生との対応ができた。それぞれの条件に応じて参加が可能なハイブリッド型の交流会、今後も意義があるものと考えます。

Relationship and Kindness are the Kings

### “Exchange meetings that satisfy wishes of international students and RKK members“

Naoko Matsui

In the northern area group, we have held exchange meetings among RKK members on Zoom to talk about hobbies and share information. Through the meetings, we have thought that Zoom will enable us to actively exchange with international students as ever.

#### 2021: Exchange on Zoom

- ・ Discussion between five international students and their tutors with a theme of “the difficulties you faced during the COVID-19 pandemic”
- ・ We reported what we discussed to RKK members and shared the feelings and desires of students.

#### 2022: Hybrid exchange on Zoom and face to face

- ・ Presentations on Zoom by five students about themes of their choosing such as “my life since coming to Japan”
- ・ Northern area members gathered in the city center and other guest members participated on Zoom.

#### Comments of international students:

- ・ I was able to know about different lives of students from other countries and regions by hearing their presentations.
- ・ It was a good opportunity to increase my Japanese language ability because of presentation in Japanese.
- ・ I want to participate in a themed exchange meeting next time.

#### Opinions of group members:

- ・ This exchange was a valuable experience because today we have less opportunity to see and talk with students.
- ・ Area members gathered in the center could support students in cooperating with each other.

We feel hybrid exchange will continue to be meaningful for us because anyone can participate depending on each condition.

Translated by Azusa Sugita

# 留学生からのたより

## Viet Nam しゅうかつ ちが ベトナムと日本の就活の違い

よこはまこくりつだいがくいだいがくいん Trinh Thanh Lu an  
横浜国立大学大学院 チン タン ルアン (ベトナム)



わたし げんざいしゅうし ねんせい にほんじんがくせい おな しゅうしよくかつどう  
私は現在修士1年生で日本人学生と同じ、就職活動のためにいろいろ準備  
している。準備をすればするほどベトナムと日本の就職活動の大きな違いが見え  
てきた。この記事を通して、その違いをシェアしたいと思う。

いちばんおおきなちがが りょうこく さいようほうほう にほん ばあい membership がた  
一番大きな違いは、両国の採用方法である。日本の場合、メンバーシップ型が  
主流である。メンバーシップ型とは、終身雇用を前提に総合職を採用し、配置

てんかん けいけん つつこよう style  
転換しながら経験を積む雇用スタイルである。そのため、募集情報には主にその会社にふさわしい性格、  
価値観などを述べている。初任給は全員同ことも大きな特徴である。一方、採用時点では、具体的な仕事  
内容、配属部署、勤務地などの情報が明確でなく、入社後に決めるのが普通である。それに対してベトナムで  
はジョブ型が主流である。企業が採用活動を行う際、人材が不足している職種を募集することが多い。  
学生が応募する時、仕事内容や所属部署、勤務先などの詳しい情報が送られる。ただし、給与は全員同じ  
ではなく、仕事内容、本人の能力や面接時の交渉によって決まる。入社後は、メンバーシップ型のように  
多分野における総合的なスキルと知識を身につけていくのではなく、特定の分野で高い能力と経験を身に  
つけるための自己啓発が必要になる。また、終身雇用ではなく5～10年働いたら転職ということもベ  
トナムの就活の特徴である。

さいようほうしん ちがが かくせい じゅんび まった こと  
採用方針の違いにより学生の準備も全く異なる。メンバーシップ型の日本では、新卒一括採用という  
方法で卒業の1年前に採用する企業が多く企業によって求める人材が異なるので、応募書類が異なる。学  
生は、自分の希望企業の強みと弱み、業界の現状と動向についてよく理解する必要がある。面接の時、志望  
動機、社風との適性、総合的なスキルやポテンシャルが評価のポイントになる。一方、ベトナムでは、業種  
に対する適性やその分野の専門家になるポテンシャルが評価のポイントである。場合により志望動機や社風との  
適性よりも重視されることもある。そのため、学生は自分のやりたい仕事をよく理解する必要がある。そして、  
仕事に関する徹底的なリサーチを行った上で、なぜその仕事を志望するのか、その仕事に求めている経験や  
スキルを身につくために、受講した講義、参加したインターンシップや課外活動などを詳しく書いた履歴書  
(通常A4一枚以内)を作成する必要がある。この履歴書は、多くの企業に応募するために使用することがで  
きる。ベトナムの企業は、面接結果の日から1ヶ月以内に出勤を求めることが多いので、多くの学生は卒業後  
に応募を始めることが多い。日本人学生の場合、上記のように卒業の1年前位から応募を始めることが多い。  
以上は、私が個人的な経験に基づいて気づいたベトナムと日本での就活の主な違いである。それぞれの国  
の事情や経済状況に合わせて誕生したため、どちらの採用方法が良いかを判断するのは難しい。しかし、  
これらの違いを通じて、それぞれの国の独自性や文化の違いをある程度理解できると考えている。

## 沖縄の旅

かながわだいがくだいがくいん こう こうい  
神奈川大学大学院 江 宏偉 (中国)



みなさん、こんにちは! 私は中国安徽省から来た江宏偉と申します。現在、神奈川大学の歴史民俗資料科学研究科に所属する修士2年生です。

2021年4月から参加し、さまざまな日本に関する知識を学んでいます。

これから私の沖縄旅行について話します。今年(2022年)の夏休みに念願だった旅行先の沖縄に行ったとき、東京の羽田空港から沖縄の那覇空港まで2時間45分ほどかかり、沖縄の上空を飛行機が移動していたとき窓から外を見ると深い

青い海と薄い青の空が溶け合っているような素晴らしい景色に心を打たれ、今この美しい映像の中にあることがどんなに幸せなことだろうかと感じました。飛行機が那覇空港に着陸したとき向かい合った海風は思ったほど熱くなく、体に吹いているのはとても心地よく、私が沖縄を好きだからこの温度を受け入れたのかもしれません。ホテルに着いたときはもう夕方だったので、荷物をまとめて沖縄の美味しい料理を探しに出かけたのですが、特にこだわりはなく、いいと思ったら入ってしまいました。その夜に居酒屋を選んだのですが、店名は忘れましたが店内はとても賑やかで皆が笑顔で話していたのを見ています。このシーンは中国のレストランでの食事の雰囲気を感じさせてくれて、とても楽しかったので夜にたくさんのお酒を飲みました。その時にハブ酒も飲んでいましたが、その時に店員さんが透明なガラスの缶を持ってきて見せてくれて中には可愛い蛇が入っていて、人生で初めて蛇のお酒を飲んだのは本当に不思議な体験でした。夕食後の帰り道、夜道で三線を演奏しているおじさんを見て初めて三線の生の音色を感じ、今にして思えばとても楽しい体験だと思いました。旅行の最終日に石垣島に行き夜は一人で海に行き星空を長時間見ていましたが、とても美しく、4つの流星が飛んでいるのを見ました。突然、こんな美しい景色がずっと私たちの生活の中であって、ただ都市の光の汚染に視界を遮られていることに気づきました。私たちはずっと美しい自然の中で生活してきましたが、長い時間で自分たちの作った都市空間の中で美しい自然の存在を忘れてしまったのだと思います。

今回の旅行で私は自然の美しさと沖縄の人々の情熱を感じ、同時に美しいものがずっと私たちのそばにあることを認識しました。ただ、日常生活の中で私たちは気づいていません。もし、私たちが細心の注意を払えば必ず見つけることができるはずです。

## 日本でボランティアの経験

Elina Uehara (Mexico)  
横浜国立大学大学院 エリナ ウエハラ (メキシコ)



来日にしたときは2018年でした。この4年間にたくさんのお話をしました。例えば、色々な場所に旅行したり、美味しい日本食を食べたり、祭りを見に行ったり、ハイキングもしたり日本の生活すごく楽しかったです。しかし、この経験では何かもの足りないと思いました。もっと地方の人の生活を知りたいと思っていました。それで、友達が日本の家族と一緒にボランティアをした話を聞いて私もやってみ

ようと思いました。WWOOF(ウーフ)は農業ボランティアです(下記のweb site参照)。募集している検索サイトで熊本県菊池市の農家を選びました。

私は今年の夏休みに9月末の五日間で菊池市に行きました。農家はご両親と3人の息子がいます。彼たちはお米、いちご、野菜を収穫しています。それで、メキシコの唐辛子も収穫しているのですごくびっくりしました。唐辛子はハラペニョとハバネロという品種です。私はメキシコの唐辛子のソースを作っただけで、30個ボトルぐらい作ったので家族が後でオルガニックマーケットに売る予定になりました。日本でメキシコの唐辛子を育てることができるのはすごくびっくりして嬉しいです。また家族が優しく息子も可愛く毎日新鮮で楽しかったです。村の日本人と都市の日本人は確かに違うことがありますが、村の人達は常に心が暖かいと思えました。五日間だけでしたけど最高な経験だったと思います。



[https://www.wwoofjapan.com/home/index.php?option=com\\_content&view=featured&Itemid=147&lang=jp](https://www.wwoofjapan.com/home/index.php?option=com_content&view=featured&Itemid=147&lang=jp)

## 新型コロナウイルスと留学生

元横浜国立大学大学院留学生 Nguyen Hue Minh (ベトナム)

2019年末以降、Covid-19の流行は、仕事から勉強まですべての人間

活動に影響を与えています。多くの企業がリモートワークに切り替え多くの学校が一時的に閉鎖されたり、オンライン学習に切り替えられました。

日本にいる留学生にとってもコロナ禍により多くの学習計画や日常生活が変わりました。コロナの流行が始まった時、家族は横浜に住んでいました。当時、横浜国立大学のポストドク研究員でした。コロナの流行の影響で私の家族の

二人共元留学生会員 左が筆者 生活は多くの変化を遂げました。夫のパートタイムはますます難しくなり、子どもたちの幼稚園はしばらく閉鎖され、私の研究はオンラインに移行し、教授やクラスメイトとのやり取りは減りました。特に2020年は世界的なコロナ禍の影響で日本から海外への移動が難しくなり、アメリカでの会議参加(2020年4月)、ベトナムへの帰国日程(2020年10月)など様々な予定がキャンセルされました。

横浜国立大学を卒業後2020年11月からは奨学金がなくなり、家族全員の生活費をアルバイトで賄っていたため生活は苦しくなりました。夫の収入も少なくなる中、この流行の先行きも見えず家族で大変心配をしました。帰国できるようベトナム大使館からの救援便を申し込むことにしました。6か月待った後、フライト4日前の2021年4月16日、ホーム通知を受け取りました。この4日間、私たちは荷物をまとめ友人たちに挨拶と別れを告げ、賃貸アパートを解約し、成田空港から飛行機でベトナムに戻りました。2021年4月までベトナムは流行を非常にうまく制御していたため、ベトナムに戻れば生活が正常に戻ることを願っていました。しかし残念ながら、当時、コロナの流行がベトナムでも広く広がり始めていたため、私たちのフライトに搭乗した全員が軍事ゾーンでの21日間の隔離を要求されました。軍事地域にいた私たちは様々な疫病感染のことがとても心配で日本での生活が恋しくなりました。ベトナムでは

Ho Chi Minh 市の経済大学で講師をしています。帰国当初はパンデミックの為、フルタイム、オンラインで仕事をし、親のいるハノイに住んでいました。

2022年2月からはベトナムでの生活がニューノーマル状態に戻り家族でホーチミン市に引っ越し、コロナ禍の恐怖もあまりなくなりました。家族みんな今でも日本のことを覚えていて、一緒に日本の絵本を読んだり、無印良品、マツモトキヨシ、ダイソーなど、日本のブランドショッピングに行ったり、ラーメン、うどん、寿司などの日本食を食べたりしています。近い将来、再び日本に行けることを希望しています。

## 世界で有名なシーギリヤロック

横浜国立大学大学院 サリカ・ティラカラナ (スリランカ)



皆さんはスリランカにあるシーギリヤロックを知っていますか。シーギリヤはスリランカの真ん中にあり、ユネスコの世界遺産に選ばれた有名な遺跡です。

5世紀にカッサパ1世という王様がこの岩の上に宮殿を建てたといわれています。

カッサパ1世はアヌラーダプラ時代にスリランカで在位しました。カッサパは父親を殺して王様になったので、弟がカッサパと戦争すると思い、自分を守るためにシー

ギリヤで180メートルの高さの円柱形の岩の上に宮殿を建てました。さらに、宮殿だけではなく、美しい庭や池も作ったので、優雅な日々を過ごしていたといわれています。しかも、象をポンプの動力として水を岩の上上げる技術はシーギリヤであった興味深い技術の一つです。観光客にとって、シーギリヤは水利技術の驚異だと言われているが、シーギリヤロックの壁に描かれた美人画や散文詩など、文化芸術もとても面白く思います。シーギリヤだけでなくゴールやカンディのような世界遺産やジャフナのようなヒンドゥー文化の色濃い観光地があるので、皆さんもスリランカのこのような文化観光地に行ってみてください。



シーギリヤロック

## 時間の使い方 covid-19

東京工業大学大学院 ジュビ マレマ ジャロ (セネガル)

covid-19は、時間管理を通じて私のライフスタイルをどのように変えましたか？

時間管理は、私にとって常に重要な問題でした。時間を効果的に管理する能力は重要です。適切な時間管理は効率と生産性の向上につながり、ストレスを軽減し人生でより多くの成功をもたらします。

私の最大の問題は、自分が興味を持っていることをすべて同時にやることです。やりたいことの優先順位に迷うこともありました。それらの重要性を考慮して計画を立ててください。時間のかかることは人生の管理において非常に重要です。1週間または1か月でいくつかのことを達成したいという欲求を感じることがあります。通常、これは時間管理の悪さにつながります。何かに集中すると、非常に興味深くやめたくないからです。場合によっては、反対のケースも発生可能性があります。1つのスケジュール

されたタスクから開始しますが、必要な時間が与えられません。または、人生の目標に大きな影響を与えないことに多くの時間を費やすことさえあります。

計画を立て時間を尊重することは非常に重要です。人生の目標、家族、環境またはこの世界への貢献を気にしている場合、すべてのタスクとその成果と時間はあなたの全時間の中で素晴らしい場所を占めています。最近予想外に世界はすべての人のライフスタイル全体に影響を与えるパンデミックを経験しました。

covid-19 パンデミックは、社会的、経済的、健康的な危機です。それは多くの問題を引き起こし、その影響は深刻で広範囲に及んでおり、これまでのところ世界中で感じられています。

それは社会的および経済的混乱を引き起こしました。それは何百万人もの人々を殺し、他の多くの人々を極度の貧困に追い込み、栄養不足の人々の数を増やしました。主にロックダウン中は人々が収入を得ることができないという事実が原因です。自分自身とその家族を養うことができません。

世界的に深刻な問題として、人類の生活に大きな影響を与えています。Covid-19 は、世界中のあらゆる場所で学習と教育のスタイルを変えました。

それは私に新しいメソッドの時間管理の根幹である新しい学習スタイルをもたらしました。

社会的孤立により、多くの人々が新しいライフスタイルと生計を立て、特に学生や研究者は緊急の「リモート」教育、学習、研究に移行しました。ロックダウン期間中に大学が講じた措置と研究と学習評価プロセスの方法は、私に時間管理の新しいデザインをもたらしました。

特に、時間管理が改善されました。ここで言及できる時間管理の最初のポイントは、食事の時間です。ほぼ一日中同じ部屋で過ごすので、食事の時間を効率よく管理するためには、健康状態を良好に保つことが重要になってきます。いつ食べるかを知るだけでは十分ではありませんでしたが、何を食べるのが最適で、いつより活動的になるかを理解することができました。その上、オンラインコースは固定されており、そのスケジュールは私の個人的な決定ではありませんでした。今では駅に行ったり、電車に乗って学校に行ったり、対面式の授業に出席したりする時間が割り当てに使用されました。今まで電子書籍を読んでいた時間が重要になってきました。時間をかけて読めば読むほど、なじみのない言葉や表現、技法、新しい技術に出会いました。新しいことを発見して学ぶことは刺激的になり、ある程度の時間がかかります。

「リモート」授業のおかげで、日本語の授業に割り当てられる時間が増えました。対面授業よりもオンライン授業の方が多くあります。1週間に2回、同じ先生のクラスです。時間がないので定期的に運動できるとは思いもしませんでした。ロックダウン中に週に5日ごとに少なくとも40分のトレーニングを割り当てることができたことに気付きました。

Covid-19 はまったく良くありませんでしたが、目標の生活に到達するために日常生活の中で時間を管理する新しい方法を発見し、学ぶことができました。Covid-19 の後と同様に将来何が起こるかわからないので、時間管理は常に良い質問です。したがって、私たちは状況に応じて時間を管理できなければなりません。

# 博士課程の日本での生活

Wichuda Munbua Thailand  
横浜国立大学大学院 ウィチュダー ムンブア (タイ)



タイ人の博士課程の三年生、ウィチュダーです。日本の教育システムの評判と質の高さが私の日本で博士号を取得する動機となった主な理由です。強い動機付けとなったのはタイで私が修士課程の土木工学の学生だったとき、日本で留学した評判の良い教授陣が行う授業でした。その先生方は、日本で吸収した総合的な知識をタイの若い学生たちに教えて下さいました。先生方は、開発した設計基準、国のためになるような研究を行って来ました。私も夢が叶い、2020年4月に横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院博士課程に入学し、コンクリート工学の研究室に所属することになりました。

日本での生活では、特に政府機関、コンビニ、銀行などの公共機関では日本語が不可欠になりましたが、幸いなことに色々な所でいつも理解、サポートしていただいています。博士課程の1年目から日本語の授業を受けていますが、工学博士の研究が忙しく、授業で習ったことを練習したり復習したりするための時間がほとんどありません。そのためスピーキングは最も苦手で、改善したいと思って考えていました。

2021年4月、コロナの状況が緩和し始めた頃、友人がRKKを紹介してくれ、公園でのイベントに誘ってくれました。日本語の練習だけでなく日本での生活についてのアドバイスもあり、とても印象に残っています。その後、チューターの先生を紹介して頂きました。それ以来、毎週、先生には文法、会話、記事の読み方、スピーキングテストのロールプレイ、日本語の授業の復習などを手伝って頂いています。先生と一緒に勉強すると、時間が経つのがとても早く感じます。最近では、コロナがおちついて美術館やランチやカフェに行くことができるようになりました。先生と一緒に過ごす時間は本当に楽しいです。RKKは、私のように日本語を上手になりたい留学生にとって、とても役に立つと思います。

博士課程の勉強は大変で研究も難しいですが、幸運なことに先生方は良くして頂いています。特に指導教官は、私の良いところを伸ばし研究をサポートして下さいます。日本での留学生活で一番良い経験は、ヨーロッパの国々で開催される学会に参加したことでした。このパンデミックの中、可能になるとは思ってもみませんでした。以前は、日本国内で開催される学会であっても、博士課程の学生の何人かはオンラインで参加していました。それでも、指導教官は2022年9月にドイツで開催される学会で論文を発表し、2022年8月にはイタリアで別の論文の発表を後押しして下さいました。博士課程の学生にとって、卒業までにそのような貴重な経験を積むこと、学会への参加を楽しむことはとても大切であることを教えて下さいました。学会の大勢の前で話すのは大変なことですが、どうしたらストレスなく学会を楽しめるのか、最初はまったく分かりませんが、学会に参加する後は答えが出ました。学会では、自分たちの研究を世界に伝えるだけでなく、笑顔の中から新しい友人や人脈を作ることができることを知りました。2023年3月の卒業の前に得られた本当に楽しくて貴重な経験です。

# RKK とのストーリー

横浜国立大学大学院 劉 静 (中国)

皆さん、こんにちは。私は横浜国立大学国際経済法の修士二年生です。RKKとの出会いは、指導教授が論文の日本語を修正するために、ボランティア先生が必要だと言われたということでした。RKKのボランティアの先生は、非常に真面目で責任感があることを先輩から聞かれ、私も応募しました。当時はコロナの特別な期間で日本に来ることができず、日本語の会話や作文能力にもまだまだ不備でした。日本語会話能力の改善に関しては、毎週RKKの先生と1時間くらい話し、会話の内容は非常に豊富で、私の会話能力が大幅に改善されました。作文に関しては発表があるたびにボランティア先生が発表原稿の文法上の間違いを修正するのを手伝ってくれるので非常に安心できます。会話と作文の練習を1年以上続けた後、徐々に自信ができました。また、今年やっと日本に来ることができました。RKKの先生は、とても気さくでフレンドリーで、私ともう一人のRKKに入会した留学生の友達を寿司に招待してくれました。それは日本の寿司を食べるのが初めてだったため素晴らしい経験でした。その後、華道を鑑賞に行き中国の華道とは異なる文化を体験しました。その後、鎌倉、沖縄、大阪など色々なところに旅行に行ったことがあり、RKKの先生は見どころや注意点などを教えてくれるのでとても頼もしいです。日本の風習をより深く知るに伴い、日本で働くことを決意しました。現在は日本で仕事を見つけ、将来は仕事を通じて日本のことをもっと学びたいと思っています。



鎌倉旅行で

総じて、RKKは日本語を学び、日本文化を理解するための非常に良いプラットフォームであり、中国と日本の友好の架け橋だと思います。RKKが私にもたらしてくれたすべてのことにとても感謝しています。留学生は、日本についてのことを学ぶため、このような友好なプラットフォームを選択できると思います。

## RKKの会員としての感想

横浜国立大学大学院 鄭 林 (中国)

RKKの会員になって2年間ぐらいいつ経ちました。RKKは留学生支援に全力を尽くしています。担当してくれたRKKのボランティア先生に真剣に感謝の気持ちを持っています。コロナの原因で、私は今年5月に日本に来たばかりです。中国にいた頃はzoomを通じてRKKのボランティア先生と連絡を取っていました。当時、私は日本の大学院の受験を準備する段階にいて、自分の研究計画書に忙しかった。先生たちは私の状況をよく理解してくれて、日本にいたとしても日本語を支援してくれました。RKKは私の進学に助けてくれました。その後、日本に来てから、先生は日本語のほかに生花の展示会にも連れて行ってきて、日本の文化に対してもっと深く知りました。以下に展示会の写真を添付させていただきます。普段に毎週先生と一回会います。先生との日本語会話はとても面白く、しかも学校の報告書や論文を完成する間に毎回とても丁寧に日本語を修正してくれました。そして勉強以外のことについて



展示会の写真

でもたくさんのアドバイスをしてくれて、私の日本での生活にとっても役に立ちました。留学する間、生活の中でいくつかの困難に直面することがあります。感動したのは、どんな困難があっても RKK ボランティアの先生とコミュニケーションができ、先生も親切に指導してくれました。

最後に、RKK のすべての先生に感謝の気持ちを表したいです。また、より多くの中国留学生が RKK に参加し、中日友好関係が RKK で発展することを心から願っています。

## 日本語支援

### 私の日本語支援

湘南地区 鳥越 彰

昨年の12月に RKK に入会し、現在、中国出身で横浜国立大学の博士課程で経済専攻の K さん(男性)とスリランカ出身で同じく横浜国立大学の博士課程で工学専攻の S さん(男性)に日本語を教えています。

中国の K さんは既に JLPT の1級を持っていて、会話はあまり問題が無いので、最初は彼が博士論文を日本語で書くときに備え、「留学生のための論理的な文章の書き方」という教科書を用いて、文章の句読点や段落、構成について学んでいました。その後、彼の専門である中国の老人介護福祉システムの変化に関する小論文を添削したところ、日本語の修正もさることながら、内容に関して他との比較や分析が少ないと感じました。せっかく日本に居るのだから日本の老人介護福祉の仕組みや現状を学んで、中国のそれと比較した方がより良い論文になるということで意見が一致し、現在は日本での老人介護の現状を書いた小説や、日本の介護保険制度を解説したサイトなどを題材にして一緒に学んでいます。

次にスリランカの S さんは、大学では先生と英語で会話し、論文も英語で書くということで、日常的に日本語を使う機会が少ないため、初級者向けの教科書で授業をしていました。しかし、最近、彼が JLPT3 の試験を申し込んだので、JLPT の対策本の問題を解いてもらって一緒に答え合わせをし、彼がわからなかったところを英語で説明しています。彼と授業をしながらわかったことは、世の中には英語母語話者のための優れた日本語学習本やネット上の日本語学習サイトが多く存在することです。教科書で言うと Japan Times が出している GENKI(げんき)は英語での文法の説明が秀逸ですし、KANJI は漢字のへんやつくりをイラストとストーリーで解説し、学習者が興味を持って覚えられるように工夫されています。さらに、英語での JLPT 対策サイトの JLPT Sensei は日本語の言い回しを入力すれば、その日本語の JLPT のレベルとともに、英語で用法や意味を解説してくれます。RKK で留学生に日本語を教えながら、私も一緒に多くのことを学んでいます。



筆者(左端)

### よこはま夢ファンドのご案内

横浜市には、ボランティア団体の支援を目的とした“よこはま夢ファンド”の制度があることをご存知でしょうか。このファンドを通じて RKK の留学生支援活動を支援していただくことができます。ご協力をお願い申し上げます。税制上の優遇措置などの詳細は「よこはま夢ファンド」で検索してください。



## 北京の街角で

東地区 鈴木 隆

RKKで留学生の日本語支援を始めてから、来年6月で丁度10年になる。その間に色々な形で日本語の支援をした留学生の数は恐らく20人を越えるだろう。ただ卒業や帰国といった節目を境にして段々と疎遠になるケースが多い。

しかし、不思議な事に、一番始めに恐る恐る支援を始めたYさんとの交流は今でも続いている。彼女は日本に滞在中に生け花やフラワーアレンジメントを習い始めて、教師の資格も取得した。日本でお花に出会った事で自分の人生観も変わった、と言っていた。北京に帰ってからも年に数回日本に来ては、お花の技術研修を受けてきた。日本語で会話する力を維持したいという彼女の希望で、週に一度はスカイプやズームでずっと会話を続けてきた。特にコロナ禍のここ3年間は日本に来る事も出来ず、彼女にとってはズームでの私との会話が唯一の日本語会話実践の場となった。そんな彼女は、北京に帰ってからも本部の許可を得てお花の教室を開き、講習会やイベントの飾りつけなどお花に関する仕事をして活躍している。また本部の依頼でお花の紹介本を中国語に翻訳もしており、その翻訳に際して日本語のニュアンスを説明するといったお手伝いもさせてもらった。細やかな感性による美を表現する日本語をどう置き換えるのか、二人で頭を悩ませた事も多々ある。



最近では2冊目の本が上梓されたようだ。またお花の教室で一緒に働く人や講習会の生徒さんの中にも、日本に興味を持ち、日本語で会話したいという人達も出てきて、時々彼女達と会話する機会も得ることが出来た。そんな風に交流の小さな蕾が北京の街角でポツリポツリと咲き始めているような、そんな気持ちになる。それは自分の勝手な思い込みでとるに足らない小さなことなのだが、自分にとっては大きな喜びとなっている。10年前にRKKで得られた支援活動により、退職後の生活で思いがけない新たな人との繋がりが出来た。それもRKKのお陰と感謝している。

### 留学生の皆さんへ / For International Students

Let's join one-to-one Japanese language teaching program by volunteers.

- ・ 日常会話 (Daily Conversation)
- ・ ビジネス会話 (Business Conversation)
- ・ 卒論、レポートの文書支援 (Writing Japanese Theses & Reports)
- ・ 新聞／書籍等の読解 (Reading Newspaper & Books)
- ・ 日本語能力試験 (Japanese Language Proficiency Test)
- ・ 就職活動 (Job Hunting・Entry sheets/Interviews)



Enjoy visiting plants/ laboratories and participating in various cultural exchanges.

Contact : 津田(Tsuda) e-mail; sakura\_tsudakei@ybb.ne.jp

Home Page : <http://rkk.world.coocan.jp/>

Scan this code for getting application form

# 文化・ファミリー交流

## 誌上文化祭

文化・ファミリー交流グループ 徳屋 英生

RKK文化祭は2013年に第一回を開催以来、例年11月23日前後に毎年開催されてきました。コロナ禍によりこの3年間中止を余儀なくされました。

従来、文化祭は、1) 留学生に日本文化の紹介、体験

2) 留学生の母国紹介による会員の海外知識の深化

3) 会員の趣味、特技の紹介

4) 文化祭を通じて留学生同士、留学生と会員、会員相互の交流の活性化

5) お祭りを楽しむ

等を目的として開催されてきました。

文化祭の伝統、意義を維持するため今年度も昨年度に続き誌上文化祭を開催しました。

2回目でもあり、昨年より出展者数が増え、16人の会員より50作品に及ぶ多くの応募がありました。

絵画、写真、書、似顔絵、川柳、風呂敷包み、科学模型と多岐にわたっています。ただ残念ながら留学生の応募が昨年同様少なく絵画1人でした、今後広く募る必要があると思います。

すでにメール、ホームページでご案内済みですが、ここに再度、作品集のウェブサイトを明記いたします。この作品集を一つの媒体として会員相互の交流が深まればありがたいと思います。

[RKK\\_Cultural\\_Festival\\_2022.pdf \(coocan.jp\)](#) (参照)



# 社会・見学会

## 第74回 小田原漁港、小田原城見学

(2022年12月3日実施)

社会・工場見学G 廣越 功久

コロナの第8波が微妙な状況の中、第74回の見学会を実施しました。見学活動を始めて23年になりますが、城下町を訪れるのは初めてです。漁港での魚中心の昼食と小田原城の天守閣見学が今回の見学会の目玉でした。参加者は留学生5人とRKK会員13人の合計18人でしたが、留学生の出身が中国2人、台湾1人、(中米)ホンジュラス1人、(アフリカ)ウガンダ1人という多彩な顔ぶれでした。



# 「小田原漁港・小田原城の見学」感想

横浜国立大学大学院 張 新妍 (中国)



RKK社会見学は、小田原漁港と小田原城が目的地でした。12月3日の朝10時半、皆さんは早川駅に集合していました。初対面でそわそわしていましたが、会員の皆さんが優しい笑顔で声をかけてくださるおかげで、緊張感が一気にほぐれました。

最初の訪問先である小田原漁港は、日本で駅から一番近い漁港ですので、歩いてすぐに到着しました。この漁港は「掘り込み式」といって、元は田んぼやみかん畑であった農地を掘って造った日本国内では珍しい形態であると聞いています。心地よい潮風を浴びながら目の前に広がる相模湾を眺めて良い気分転換となりました。また漁港周辺に新鮮な海鮮料理が食べられる飲食店や加工品販売店が軒を連ねていて普段は見えない景色でした。昼ご飯の海鮮丼も美味しかったです。

海の味を満喫した後、次の目的地の小田原城へ向かいました。北条氏の本拠地として有名である小田原城は、その天守閣の高さが38.7メートルであり、日本の七番目となります。遠くから見ると、凜とした白い外壁が青空に際立ちして、とても美しいです。天守閣の内部には、小田原城に関する歴史を紹介するスペースが作られています。小田原城の構成と役割、小田原北条氏と文化の形成そして小田原城を取り巻く城下の暮らし等は写真や動画の形式で展示されて、とても興味深かったです。また、5階の展望デッキで小田原城下の景色を360度見渡すことができます。

短い旅でしたが、日本人の自然環境を保全するために尽くした努力と伝統や文化を大切にする意識に再感心しました。長らく続くコロナ禍の中で、今回の社会見学は留学生に大自然と触れ合う機会と文化交流の場を提供していただきました。本当に素晴らしい思い出になりました。



小田原漁港にて

## 外国語学習

### 中国語教室から

外国語学習 G (中国語講座) 青池 愛子

今、中国語の仲間はだいたい10人ぐらいで初級者からかなり力のある人まで色々ですが、先生が色々工夫をして下さっていますので、力のある方はじれったいでしょうが、皆さん頑張っています。

私個人的には、きれいな中国語を流れるように話せたらいいなあ、ということで始めたのですが、日本語と比べて発音がとても複雑でその上四声という音の高低を正しく身に付けなければ、流れるようなきれいな発音は出来ないということでお手上げの状態です。でも、今回の権明先生は中国の有名な詩を使って朗読の練習をしてくださり、今は、テレサテンも歌っていた歌をメロディーに乗せて中国語を発音するので四声も自然に身につきます。歌いながら中国語が自然に身に着くということになれば楽しく学べて一挙両得ですね。皆さん会話ができるようになりました。



いということで、会話をつなぐための簡単な質問文やそれに対する簡単な答え方などを練習しています。

今回からはそれに加えて、担当者が書いてきた文を文法的に合っているかどうかみんなでガヤガヤやりながら文法を学んでいきます。今の中国語教室はこんなやり方で楽しく学んでいます。

初心者の方でももっと中国語を磨きたいという方も参加されてみませんか？お待ちしております。

## ベトナム語 — 声調・発音が難しいけれど毎回楽しみ！

外国語学習 G (ベトナム語講座) 池田 一治



1 年程前に RKK メンバーのご紹介でベトナム語講座に加えていただいた池田と申します。最近やっと声調の意味に慣れてきたのですが、なかなか正しい発音が出来ないので Chào buổi chiều. (こんにちは) できても何回か言わないとベトナムの人達に理解してもらえない段階です。しかし、毎週日曜日の午前中、大学院生の Hương 先生が画像や音声を取り入れた資料や笑顔と忍耐で授業をしてくださるお陰で毎回楽しみに勉強させてもらっています。

3 年前に 1 年半程、ダラットのベトナム企業で働いた経験があるのですが、その時は日本で技能実習経験のあるアシスタントに頼ってばかりいたので、ベトナム語は全く身に付きませんでした。帰国後少しはベトナム語を話せるようになりたいと思いこの講座で基礎から勉強を始めたところです。

昨年末には 3 年ぶりにベトナムに行くことが出来、ホーチミン、ダラット、ニャチャンと回ってきました。ホーチミンでは高層ビルの建築やショッピングモールの建設がまだまだ続けられていましたが、残念ながら高速道路や地下鉄などのインフラ整備が遅れているため、相変わらずオートバイと車で道が溢れ交通渋滞による大気汚染がひどくなったように感じました。そのような状況も、現在日本の大学・大学院で都市づくりや環境工学などを学んでいるベトナムの留学生達が近い将来改善してくれるのではないかと期待しています。ベトナムからの留学生数は約 6 万人 (2020 年) と増えている中、彼らのサポートやお互いの文化を理解する上でベトナム語の必要性が更に高まるのではないかと感じています。

ベトナム語でコミュニケーションが出来るよう「オジサン老いやすく学成り難し」に抗っていきたいと思っています。

## 運営懇談会の実施状況

深水 智明

本年度の活動として進めています運営懇談会、それは通常の会議などでは、時間等の都合などで話し合いが進まない案件を自由に制約することなく話合う場です。役員や有志のスタッフの皆さんと懇談しています。

RKK を通じて、今後共、留学生と交流を楽しみ、生き甲斐を得たいと願っています。

第 1 回は、まずは特定のテーマを決めず、自由に意見交換をしました。そのご意見を整理すると、「人」の関連、「活動」の関連、そして「マネジメント、広報など」の関連に分けられました。

私共の活動は「人」であります。そこで、第 2 回では、「人的面」について意見交換をし、対応などを話し合いました。その要点 (概略) は、「留学生の確保、新規会員の加入促進とそれらの方策」、「会員の高齢化現状の確認、今後の対応」、「スタッフ (担当) の固定化とそれによる弊害対応」、「女性会員、特にスタッフの少数」、「情報の共有・交流の促進」などであり、多方面から話し合われました。

さらに、「活動面」、「マネジメント面」などで自由な意見交換を進めます。

# 委員会情報

## 就活における SNS の利用について

キャリア支援委員会 田中 和生



私は就職活動の支援を通じて、今までに13カ国の留学生に接して来ました。日本に興味を持ったきっかけを彼らに尋ねると、多くの留学生がアニメや漫画だと答えてくれますが、最近では SNS や動画投稿サイトの影響も無視できないと感じています。

例えば中国人留学生は中国版 LINE と言える微信 (Wechat) に加え、小紅本 (Red) などの動画投稿サイトを通じて他の留学生が発信している就活に関する情報を入手しています。

ある留学生は小紅本に投稿されている留學生活についての動画を見て、日本への留學を決意したと語ってくれました。また、別の留学生は市場調査業界のトップ企業のグループ会社から内定を貰ったのですが、日常生活で接することは無いのでその企業のことは一般には知られていません。どこで知ったのかと尋ねると、その企業から内定を貰った留学生が発信している動画を小紅本で見、応募を決めたとのことでした。あるマレーシアからの留学生は、Facebook に日本語が活かせる仕事がしたいと書き込んだことがきっかけとなり、出身地の日系企業に勤める知り合いから声が掛かり、今春入社することになりました。さらに、日本に住む留学生が後輩の為に発信している就活に関する情報は母国の後輩達も見ています。私自身とっても、支援している留学生や母国の文化について理解を深める手段としても SNS が役に立っています。

中国人留学生の場合は Wechat で友達登録すると、彼らが日々発信している写真や動画を通じて、彼らの関心事や母国の文化をより身近に知る事ができます。日本語を学び、留學を目指す学生に向けて「横浜に来られたら RKK にぜひ声を掛けてくださいね」と Wechat や Facebook で呼び掛けてみても良いかもしれませんね。

## 日本語勉強用の WEB サイト紹介

ICT 推進委員会 永作 重夫

留学生への日本語支援のソフト等の情報を RKK 会員へ募ったところ多くの情報が得られました。シンプルに区分けして提示します。

### 公的機関からの提示

- ・ 国立国語研究所 (オノマトペ対応)  
<https://www2.ninjal.ac.jp/Onomatope/index.html>
- ・ 国際交流基金日本語センター (日本語教材)  
<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/education/resource/>
- ・ 国際交流基金関西センター 学習 web サイト  
<https://hirogaru-nihongo.jp/>

### 大学からの提示

- ・ 横浜国立大学 日本語学習 [http://www.isc.ynu.ac.jp/study/link/elementary\\_level/index.html](http://www.isc.ynu.ac.jp/study/link/elementary_level/index.html)
- ・ 東京外国語大学 (27 の言語に対応)  
[http://www.tufs.ac.jp/social\\_international/open-academy/online-jpclass/](http://www.tufs.ac.jp/social_international/open-academy/online-jpclass/)
- ・ 明治学院大学 教養教育センター <https://mgu-cfla.cc-town.net/ls>

### その他

## 【参考】

### コロケーション (連語)

- 1) Google, Microsoft Bing の検索窓にチェックしたい文字列を“”で挟んで検索。
- 2) 日本語書き言葉均衡コーパスにてチェック ([NINJAL-LWP for BCCWJ \(NLB\)](#))

### 日本語会話 (Youtube)

- ・じゃばすた (敬語のきほん)
- ・日本語 NET (JLPT 対応)

### 英語から日本語への勉強 (Youtube)

- ・ Learn Japanese with JapanesePod101:
- ・ Lingo Mastry Japan

### さらなる教材

- ・ GoodNotes, Quizlet, Quizizz,
- ・ JLPT サイトの問題例集, 子供用の昔話
- ・ TSUNAHIRO つなひろ
- ・ 筆順辞典
- ・ NHK の NEWS WEB EASY, TBS NEWS

まだまだ多くのアプリ等ありますので、WEB サイトにて検索していただき、ご利用願います。

これからもさらに調査し、皆様の日本語支援に有益な WEB サイト、書籍情報などの参考情報を提供したいと思えます。

## 地区からのたより

### 中央地区だより

中央地区 畔取 孝

中央地区では、オンラインによる第3回地区交流会を12月21日(水)に開催しました。前回は台風襲来で急遽対面からオンラインによる交流会に変更しましたが、今回はコロナ感染拡大が理由です。当地区交流会は、会員のみなさんからいただいた近況報告と参加者による交流の二本柱です。今回は、その中からいくつかピックアップして、お伝えしたいと思います。



#### 参加の皆さん

T子さん：「笑いヨガ」の体験談。大きな声でワッハッハと言うだけで、笑いが自然とこみ上げてきて楽しくなります。コロナ禍のストレスが一挙に発散できますよ。M子さん：ベトナム人留学生一家と自宅で楽しいランチ会をしました。(F男さん：自宅に招くと留学生の心も開きますね) K子さん：担当留学生が受けたN2試験直前模試の後、総合得点を試算したら、「結論、合格！」となり二人で大笑いしました。試験の結果発表は来年。よい春を待ちたいと思えます。(M男さん、H男さんもご担当留学生のN試験合格を祈っています) MH子さん：やっとすべての教室が再会し、楽しい歌、体操に励んでいます。教育と教養でなく、今日行く、今日用で動いています。M夫さん：出入国の解禁を機に10日間のトルコ旅行に行きました。万歩計で全行程を計測したところ、70キロでした。帰宅後数日は疲労感を感じました。(K男：素晴らしい体力に感動!) A子さん：毎週土曜のRKK中国語教室に参加しています。(K男：私も一緒に参加しています。)

一部の紹介ですが、コロナ禍でも工夫されて過ごされている方が多くいらっしゃいました。また、日本語能力試験の受験時期となる中、留学生と一緒に勉強し、そして来春の結果待ちの方も複数人いらっしゃいました。全員がよい結果に繋がることを期待したいと思います。

## 湘南地区のたより

湘南地区 坪井 弘喜

コロナの状況が長く継続する中、2022年の湘南地区活動が漸く動き始めてきたので、以下のとおり現状報告いたします。この秋には2つのイベントにも出展参加しました。

### (1) 活動全般

昨年までリモートで実施していた交流会を今年は6月、9月の2回対面（12月も同様予定）にて実施、メール報告と併せて各会員の指導現状を確認した。12月現在の会員数は21人、学習者17人と大きな変動はない。指導方法はコロナのため従来型の対面手法に限界がある中、ZoomやLineなどリモート形式を採用する会員もあり、場所や時間に捉われない活動手法による間口の広がりを感じさせる。今後コロナが終息した場合にも対面とリモート併用の活動が続くものと思われる。一方、ここ1～2年、湘南地区として高齢化しているスタッフ人員の入替えを検討課題としているが、対面会合に基づく話合いの機会がなかなか持てないこともあり、未だ道遠しの状況ではあるが、高齢化に伴う人事の入替えは避けて通れないので、今後も継続して検討していきたい。

### (2) 藤沢市国際交流フェスティバル

10月30（日）藤沢市国際交流フェスティバルが、オリンピック関連で新しくなった藤沢市北口駅前サンパール広場にて開催された。各ボランティア団体が多数参加する中、藤沢市に登録している9つの日本語支援ボランティア団体も従来同様、同一のブース内スペースを共有、湘南地区もRKKパネル展示や入会資料などを机上に、



参加の皆さん

設置し、新規会員、学習者の加入PRを実施した。ハロウィン時期と重なったこともあってか外国人の会場訪問者数が少なかったとの印象で、準備した資料も会員向けは略無くなったが、留学生向けのもは少なからず残ったのは残念であった。藤沢市には現在7千人強の外国人が住んでおり、藤沢市としてもこれら市在住外国人のみならず新規外国人の受け入れ支援を色々実施しており、市が主催する日本語ボランティア団体会合での議論も年数回あり、都合がつく限り参加している。今後とも外国人留学生並びに日本人会員増加への手立ての一つとして活用していきたい。

### (3) ひらつか市民活動センターまつり

昨年はコロナのため、各団体のパネル展示のみであったひらつか市民活動センターまつりが11月27日（日）に開催された。

参加48団体の一つとしてRKK湘南（平塚）もブースを共有し、RKKポスターや写真、テーブル上にパンフレットや関連資料を置いて来場者へのPRを実施した。40人強の人たちに活動概況説明並びに資料配布を行った。平塚市長や県議会議員、さらには河野大臣も我がブースを訪問され、RKKの活動につきご説明申し上げた。河野大臣はRKKブースでは会員との写真撮影にもわざわざマスクを外して、気軽に応じてくださった。多くのSP警護の中であった。



市長と共に

**新入正会員の皆さま：よろしくお願ひします！**

永瀬芳隆（鶴見区）、飯田久善（泉区）（敬称略）

## 「なか区民活動センター祭り」3年ぶりに開催

南地区 植竹 光枝

RKK 南地区は11月13日（日）に横浜市中区の「なか区民活動センター」で開催された「なか区民活動センター祭り」に参加しました。コロナで開催が中止されていた中区民祭り「ハローよこはま」と同時、3年ぶりの開催でした。あいにくの曇り空でしたが、参加した39団体のグループや団体の皆さんは開催できたことを喜んでいました。

RKKのブースにお花見、七夕、工場見学、文化祭の写真や活動の説明をパネルで展示しました。当日はスタッフと共に留学生の李暉さん(写真左)と唐銘微さん(写真中央)が参加してくださいました。

足を留めて展示を見てくださった来場者には、RKKの活動内容や日本語ボランティアの実情などを話しました。また、留学生と一緒に折った折りづるを来場者にプレゼントしました。コロナで市民同士が交流することが少なくなった時期ですが、RKKの活動を紹介する良い機会となりました。



参加の皆さん

## 「とつかお結び広場」ポスター展参加

西地区 下村 斉昭

とつか区民活動センターと戸塚区役所主催の「とつかお結び広場」が11月18日から12月4日まで戸塚区総合庁舎3階アートコリドーにて開催されました。11月18日に展示を見てきましたが、未だ開会直ぐの時間であり人通りは少なかったのですが、かなり多くの団体が展示に参加していました。

入口は、3階広場の案内所に向かって左側で、入口すぐから展示が始まり、通路沿いに回るように、健康、保険、福祉、まちづくり、文化交流、環境、子ども・青少年、国際交流（RKKのポスターはここに展示）、戸塚区の広報スペースの順に掲示されました。RKKのポスターの位置は、広場からトイレに向かう通路沿いにあり場所としては良いところにあるように思いました。後日談；この展示会を契機に一人の新入会員の申し込みがありました。



出展ポスター

## RKKホームページをお訪ねください



ホームページは随時更新しており、「会員のひろば」も開設いたしました。

「会員のひろば」を通じて留学生に対する支援、交流体験の他、コンサート、映画、絵画などの文化交流情報にも利用できます。

掲載希望の会員はメッセージをRKK広報委員会スタッフにお知らせください。

- ・投稿先アドレス：
  - ・掲載ホームページ：<http://rkk.world.coocan.jp/> または、**NPO RKK** で検索。
- ホームページへのアクセスには、右のコードをスキャンしてください。

# 会員のたより

## 趣味の写真

北地区 山口 孝一

1919年から続く県内最大規模の美術公募展である「ハマ展」は、2022年で第78回を迎え、この中には洋画、日本画、彫刻立体、写真の部門があります。第76回で初めて「写真の部」に応募したら入選することができました。その後も第77回、第78回と続けて入選したが、入選作品の中から優秀作品として選ばれる「入賞」には遠く及びません。

入選作品を紹介すると、76回は岐阜県馬籠宿にある有名な「杵形の水車」を撮影中に偶然旅人に扮した二人連れに出会い、宿場の道標には「江戸へ80里半」と標示されていました。77回は、奈良公園の黄葉した銀杏の木の下で遊ぶ鹿を撮ろうとたら、変な少女がやって来て銀杏の木の下でマントのような衣服を広げました。すると一頭の鹿が少女へ歩み寄る「不思議な出会い」に遭遇しました。

78回は、中国の田舎にある大きな寺院の入口で「ブタの丸焼き」に出会い、カメラを向けると女性がにっこり笑ってくれました。その後、村人達の踊りが始まりその日は「祭りの日」で、ブタは祭りのご馳走でした。作品の審査基準は、主催団体や審査員により異なります。綺麗な風景や花などが綺麗に撮れると楽しいです。しかし、皆がやっているのので、評価はされにくいでしょう。他者との差別化には偶然の出会いなどを活かすのが一つの方法だと思います。

応募作品を撮ろうとしても、簡単には撮れません。過去の写真の中には失敗作と思っていたものが、トリミングや色彩の調整などで生き返ることもあるので、見直しも有効です。写真を撮るときは四隅にも目を配ること。撮った後で四隅に余計なものがあったら画像処理ソフトで削除すると見やすい写真になります。

デジタル写真になってから費用もあまりかかりません。スマホの写真性能も向上しています。皆さんも写真を楽しんでみませんか。



「江戸へ80里半」



「不思議な出会い」



「祭りの日」

## 民族音楽は人々のパワースポット

中央地区 村田 威雄

Youtube でのサーフィンでいろいろな合唱を楽しんでいるうちに、不協和音の混じった歌声を聴かせる、素晴らしい女性合唱団を見つけた。それはブルガリア民族音楽の合唱団である。美しく個性的な民族衣装を身につけ、花飾りを頭に付け、互いに腕を組んで、体を揺らして楽しそうに歌う。この声はブルガリアンボイスと呼ばれ、神秘的な歌声として知られる。歌声は地声で、やや硬く、とても力強い。突き刺さるような歌声だという人もいる。各パートの歌声が混じり合って不協和音となり、不思議な雰囲気を作り出す。腹式呼吸を使って、地声を喉の奥から絞り出すのだそうだ。



Abagar Quartet

(写真はアバガル・カルテットの好意による)

日本の民謡の発声法とよく似ている。ビブラートでなく小節（こぶし）を入れるところも日本民謡に似ている。合いの手には「イエー」とか、かん高い叫び声があり、合唱団の誰かが入れる。

ブルガリアの民族音楽には他民族に支配された歴史があるためか、聴いていて身に迫るものがあるが、この合唱団の歌曲には明るいものが多い。合唱をバックに1オクターブは高いと思われるソリストが朗朗と歌うものもある。まるで、花びらが舞いながら落ちてくるように美しい。

最近、Chelebiiche は眠い(Zaspalo e Chelebiyche) を無伴奏合唱で聴いた。前半では優しさとか慈しみ、中間部のポリフォニーの部分は遠くに山々が望めるブルガリアの田舎を思わせる。この曲には独唱、オーケストラ伴奏もある。とくに2000年以前に録音されたものには、地声で力一杯歌い上げたものがある。迫力が強烈で、目が覚める。

2018年11月にブルガリアからアバガル・カルテットが来日し、保土ヶ谷区の岩間市民プラザで歌ってくれた。聴いた方もおられよう。保土ヶ谷区とブルガリアの首都ソフィアとはパートナー都市協定を締結しているので、この縁で保土ヶ谷を訪れたそうだ。間近で聴く歌声は格別だった。天上から降ってくるような、あの魅力あふれる神秘的な不協和音をまた聞きたいものだ。

### 会員募集中

留学生と一緒に国際交流を楽しみましょう。RKKでは下記のプログラムを用意していますので、皆様のご希望に合わせて、留学生と様々な交流ができます。

- ・日本語学習支援 (留学生と一対一で日本語の勉強、会話をします)
- ・文化・ファミリー交流 (フェスティバルを開催し、異文化交流を深めます)
- ・社会・工場見学 (工場見学、名所ハイキングに行きます)
- ・外国語学習 (留学生が先生となって、中国語、ベトナム語を勉強します)



RKKの活動に興味をお持ちの方は右のコードを読み取るか、**RKK NPO**検索して、RKKのホームページにアクセスしてください。会報や最近の行事案内などをご覧いただけます。

### 編集後記

“留学生と語り合う” RKKニュース(新年号)では“留学生に多くを語って”もらいました。“ミニ誌上スピーチ”としてお聴きください。年末の忙しい中に新年号のために執筆いただきました。RKKとの交流、日本での生活、旅行、母国の紹介、日本と母国との比較等々が伺えます。次は会員の皆様にも留学生への思いを語っていただきたいものです。新年に当たり、日本における留学が増して実のなるよう希います。

編集担当 深水

## おもな活動 (2022/11 から 2023/1 まで)

### 理事会・スタッフミーティング

◇12/25 に 2022 年度第 2 回理事会および第 3 回スタッフミーティングを開催。コロナ禍のなか、16 人のスタッフが参加し、2022 年度事業計画を踏まえて C&C (報告、連絡、相談) を実施。

### 活動グループ

- ◇日本語支援 G : オンラインを主体とした 1 対 1 の日本語学習支援を推進。
- ◇文化・ファミリー交流 G:11/23、誌上文化祭作品集を発行し、HP 掲載とメール配信。
- ◇外国語学習 G : 中国語講座(11 人受講)とベトナム語講座(11 人受講)は週 1 回オンラインで実施。
- ◇社会・工場見学 G : 12/3、第 74 回見学会は「早川漁港、小田原城」で実施。18 人参加。

### 地区交流会

- ◇東地区 : 12/11 にオンライン交流会を実施。9 人が参加。
- ◇西地区 : 10/30 にオンライン交流会に、9 人が参加。戸塚お結び広場、活動紹介パネル展に参加。
- ◇南地区 : 11/3 に中区民活動センター祭に参加。
- ◇北地区 : 10/23 に交流会と留学生のスピーチをハイブリッド形式で実施。18 人参加。
- ◇中央地区 : 12/21 にオンライン交流会を実施。テーマを決めて 6 人が検討。
- ◇湘南地区 : 12/7 に 6 人で対面式交流会を実施。藤沢国際フェスティバル、平塚市民センター祭に参加。

### 委員会

- ◇会員委員会 : 新入会員リクルート、入会窓口業務、会員名簿更新管理、マッチングの推進。
- ◇広報委員会 : RKK ニュース 90 号の編集。HP の更新。カラーリーフレット作成プロジェクト推進。
- ◇キャリア支援委員会 : 「キャリア支援オンラインサロン」を月 1 回開催。
- ◇企画委員会 : 会議室予約管理、運営懇談会支援。
- ◇会計委員会 : 収支決算・精算処理。
- ◇ICT 推進委員会 : PC 利用法・日本語支援アプリの紹介、オンライン活用調査。
- ◇事務室 : 理事会・スタッフミーティング準備、会員推移データの更新、広報活動支援。

## NP O 法人 留学生と語り合う会

連絡先 : 〒245-0008 横浜市泉区弥生台 9-1-12-407 萩原 敦

e-メール : [rkk1025office@yahoo.co.jp](mailto:rkk1025office@yahoo.co.jp) Tel & Fax: 045-813-8327

ホームページ : <http://rkk.world.coocan.jp/>



**Friendship Association for International Students and Japanese Volunteers**

R K K ニュース編集 : R K K 広報委員会 (新年号担当) 深水智明 Jan.20.2023

無断転載をお断りします。